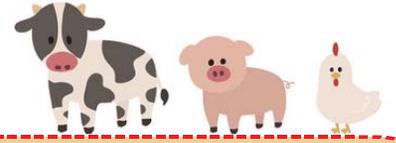


第2回定例会 営業戦略農林水産委員会

6月議会（6月6日～21日）の営業戦略農林水産委員会（6月15日）にて、コロナ禍による世界経済の停滞やロシアのウクライナ侵攻による世界情勢の悪化による県内農業への影響について質問をし、9月議会で議論される農家への支援策を求めました。

配合飼料や肥料価格の高騰について

Q. 配合飼料価格が高騰し、畜産農家が困っている。県として現状をどのように認識しているか？



畜産課長答弁

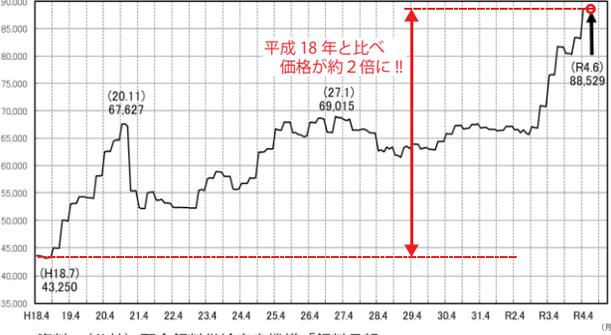
畜産経営の生産費に占める飼料費は約5割を占め、配合飼料価格の高騰は、畜産農家にとって大変厳しい状況と認識。

Q. 飼料高騰について、これまでの対応と今後の支援策をどのように考えているか？

畜産課長答弁

配合飼料価格が高騰した場合の支援策として、配合飼料価格安定制度が整備されている。本制度への加入促進に努めてきた結果、現在、県内の7割の農家が加入しているところ。また、自給飼料の増産対策として、機械整備の支援や、水田を活用した稲発酵粗飼料の推進、今年度から畜産センターにおいて本県に適した子実用トウモロコシの品種選定試験を実施している。県としては、制度への加入を引き続き促進するとともに、国の新たな支援の動きを注視する。

＜配合飼料工場渡価格の推移＞



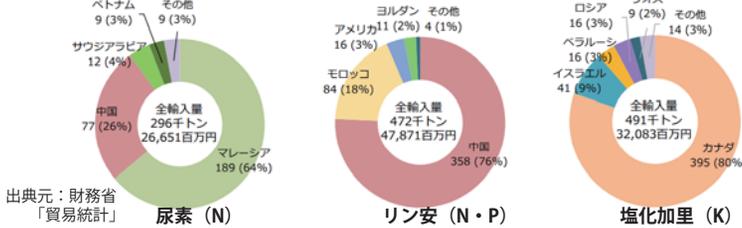
資料：（公社）配合飼料供給安定機構「飼料月報」
注：配合飼料価格は、全畜種の加重平均価格である（令和4年6月の価格は速報値）。

Q. 飼料と同様に肥料価格も高騰している。県の認識は。

農業技術課長答弁

化学肥料は輸入に頼っている。農業経営に占める割合は7～16%を占めるため、影響は大きいと認識している。

＜日本の肥料原料輸入先シェア（2021肥料年度）＞



出典元：財務省「貿易統計」

Q. 県では6月補正に有機農業に対する支援策を出している。有機農業は全員ができるものではない。肥料高騰への対策はどう考えているか。

農業技術課長答弁

県では、生産現場において施肥量を削減するため、関係マニュアルをリバイスするとともに、国の肥料コスト低減の取組を支援する事業の活用を提案している。国では肥料価格高騰対策を検討しているとしていることから、こうした動きを注視していく。

（要望） 資材全般が高騰し、農業をやめる人が出てしまう。農家の皆さんに寄り添った支援を考えてほしい。



営業戦略農林水産委員会

会派 いばらき自民党

政務調査会にて、県内外の様々な課題について勉強会を行っています。議員提出条例についても検討しており、現在、茨城県性暴力根絶条例（仮称）の策定を目指して取り組んでおります。

＜お知らせ＞

政務事務所の移転

10月1日より、政務事務所が下記住所の通り、マクドナルド124鹿嶋店の隣りになります。県政について、ご意見・ご相談・ご要望などお気軽にお話し頂けたら幸いです。



発行 / 茨城県議会議員 小松崎 敏紀

〒314-0031 茨城県鹿嶋市宮中296番地 1

TEL 0299-83-6766 FAX 050-4561-2292

E-Mail to.komatsuzaki@gmail.com

U R L https://www.toshi-koma.com

定期報告・イベント案内などお知らせを欲しい方、応援して頂ける方は是非ご登録下さい。後援会入会フォーム ⇒



Home Page



Instagram



FaceBook

詳しい活動内容はこちらのHP、SNSで配信させていただきます。